

---

## 中枢神経系疾患

### 痴呆

痴呆は特殊な疾患ではなく、さまざまな原因による症候群のことです。痴呆を示す症状は以下の通りです。

- ・最近の記憶を喪失し、仕事上の技能に影響が出る。
- ・慣れた作業を行うことが困難になる。
- ・言語に問題が生じる。
- ・時間や場所に対して見当識を失う。
- ・判断力がなくなる、または弱くなる。
- ・抽象的思考ができなくなる。
- ・物の置き場所を間違える。
- ・気分や行動が変化する。
- ・性格が変化する。
- ・決断力や自発性が失われる<sup>17</sup>。

痴呆は進行性の衰退症候群で、記憶に問題を生じるため日常生活にも影響が出てきます。アメリカでは、アルツハイマー病が最も一般的な痴呆の原因です。

ある種の痴呆は、65歳以上の人たちの5%、85歳以上の20%に認められています。元に戻らない痴呆全症例の60%は、アルツハイマー病が原因です。その他15~20%は脳卒中（脳血管性痴呆）、さらに15~20%はパーキンソン病やハンティングトン舞踏病などの神経心理学的疾患が原因です。

元に戻すことができる痴呆もありますので、上記のような症状が見られたら医師の診察を受け徹底的に健康診断をしてもらうことが重要なのです。

ただ単に高齢のために症状が見られるのか、ある種の痴呆を患っているのか判断するのが困難な場合があります。症状が現れても害はないように思われ、衰えていると意識するとこれを補おうとします。言いたい言葉が見つからなくても代わりの言葉を使いますが、人に助けを求めようとか、頼ることなど考えられません。よく知っている人は名指しで呼ばないように心がけているかもしれません。

明白に分かる症状もあります。例えば痴呆によって人との関係や、買い物、請

<sup>17</sup> イリノイ州シカゴ、アルツハイマー病と関連障害協会インク「アルツハイマー病か？知っておくべき徴候」より許可を得て使用。

求書を支払うなどの日常生活活動に支障が出る場合があります。また、クロスワードパズルを解くなど固有の技能を失う場合もあります。痴呆がもっと進むと記憶を喪失することがあります。このような場合、予約をすっぽかす以前に予約などしていないと言います。あるいは眼鏡をなくすだけでなく、眼鏡をかけていることさえ忘れます。

痴呆を患っている人は、自信をなくしたり分別がなくなって言葉づかいに問題が生じ、間違った言葉を使うこともあります。人を責めたり攻撃的になったり、あるいは判断を下すことができなくなったりすることもあります。また同じ事を何度も繰り返したり、清潔さに無頓着になって汚れた服やそぐわない服を着るなど、身だしなみに構わなくなっている様子が見られることもあります<sup>18</sup>。

### アルツハイマー病

痴呆の最も一般的な原因は、アルツハイマー病です。アルツハイマー病は、脳の病気です。この疾患は脳内の神経細胞の死滅を引き起こします。こうした細胞は、正常な記憶、思考および日常生活にとって必要なものです。アルツハイマー病にかかっているアメリカ人は、400万人にも上ります。どちらかといえば男性よりも女性の方が冒されます。アルツハイマー病の家族歴がある人は、かかる危険性も非常に高いのです。人種や民族には関係がないようです。

アルツハイマー病の症状は、各個人によって違います。この疾患は、予測通りの段階をたどって進行します。ボランティアはその段階を知ることによって、アルツハイマー病のケア受容者に適切な協力をすることができます。人が衰えていくのを目の当たりにするのはつらいことですが、辛抱強さと思いやりは測り知れないほど貴重なものです。特に要介護者を支援する仲間内では非常に重要です<sup>19</sup>。

以下が軽い段階です。

- ・様子も行動も正常な場合が多い。
- ・少し前の記憶がおぼろげになるので、新しいことを覚えるのが難しい。
- ・言語機能に少し障害が出てくるので、言葉にまごつくことがある。
- ・清潔さに無頓着になり、判断力が低下する。
- ・性格がやや変化することがある。

<sup>18</sup> Virginia Morris 「高齢化する親のケアの仕方」、ニューヨーク、Workman Publishing Co., Inc., 1996年、299-301頁より許可を得て使用。

<sup>19</sup> Virginia Morris 「高齢化する親のケアの仕方」、ニューヨーク、Workman Publishing Co., Inc., 1996年、305-306頁より許可を得て使用。

- ・感情面の反応が気まぐれで大げさになる。

以下が中程度の段階です。

- ・記憶の障害が明らかになる。少し前の記憶が全くなり、同じ話や行動を何度も何度も繰り返す。
- ・複雑な作業はできなくなり意思決定力が損なわれるので、監視する必要性が生じてくる。
- ・睡眠の周期に一貫性がなくなる。
- ・筋肉運動をうまく調整できず、身体的・心理的不安定、徘徊、行ったり来たり、が始まることもある。
- ・むら気が激しくなり、敵意や攻撃性を表すなど行動面の問題が頻繁に生じる。

以下が重度の段階です。

- ・入浴、食事、排泄など日常生活の基本的活動にも介助が必要になる。
- ・残っているのは記憶の断片のみである。
- ・厄介な行動は余り見られなくなる。
- ・錯乱状態が激しくなり、幻覚、妄想、パラノイア、体の硬直や発作が起きることもある。

### 多発梗塞性痴呆症

痴呆の40%は小さな脳卒中が原因です。こうした脳卒中は、糖尿病や高血圧によって引き起こされることもあります。小さな脳卒中は精神を冒す前に身体機能を冒しますが、MRI(磁気共鳴映像法)やCTスキャンによって診断を確認することができます。精神的徴候の前に現れるのが衰弱、ある程度の視力低下、失禁など3つの身体的徴候です。それ以上脳卒中が起きる危険性を減らすことによって、疾患の進行を遅らせることができます<sup>20</sup>。

### パーキンソン病

パーキンソン病は、脳幹の最上部にある神経細胞が変質または損傷したことによって生じます。アメリカでは100万人がパーキンソン病にかかっており、今後

<sup>20</sup> Virginia Morris 「高齢化する親のケアの仕方」、ニューヨーク、Workman Publishing Co., Inc., 1996年、306-307頁より許可を得て使用。

も年間5万人が新たにこの疾患と診断されるでしょう。パーキンソン病は40歳の若さでかかる場合もあります。この病気は治癒することはありません。薬剤で治療したり手術によって、疾患に伴う震えや硬直を軽減することができます。

パーキンソン病の早期段階にある高齢者は、一方の手、腕、脚に多少の震えが見られます。この段階では、手足を静止させている時、または情緒面でストレスを感じている時、震えが激しくなります。また筋肉が硬直することもあります。さらに疾患が進むと、椅子から立ち上がったたり、向きを変えたり、服のボタンをかけるなどの作業をすることが困難になることもよくあります。最終的には、歩いたり話したりすることが難しくなります<sup>21</sup>。

### うつ病

うつ病は単なる気分の問題ではありません。これは生物学上の疾患です。遺伝的にうつ病にかかりやすい人もいます。うつ病は病気ですから、パーキンソン病から簡単に回復することができないのと同様に、すぐに立ち直ることはできません<sup>22</sup>。

推定値によると、高齢者の20%までがうつ病であり、病院やナーシングホームではこの率が25%にも上ります。うつ病は薬剤、カウンセリング、またはその双方によって治療することができますが、うつ病の人たちのほぼ75%は治療をしないままになっています。

うつ病の証拠となるような徴候はいくつかあります。しかしその多くは別に問題があるのだと見なされてしまい、うつ病が原因であることが見落とされることが多いのです。徴候が見られたらプライマリーケアの医師に紹介し、うつ病について精神医学的状態を検査してもらわなければなりません。

<sup>21</sup> LeBoeuf & Associates, Inc., 「LeBoeuf の在宅ケア便覧：在宅介護者になるために必要なすべて」、アメリカ、Noel Press, Inc., 1996年、369頁より許可を得て改作。

<sup>22</sup> Virginia Morris 「高齢化する親のケアの仕方」、ニューヨーク、Workman Publishing Co., Inc., 1996年、107-108、110頁より許可を得て使用。

### うつ病の一般的徴候

はっきりとした理由は何もないのに憂鬱で悲しい。  
 かつては楽しんでいた活動に興味がなくなる。  
 食欲や体重に変化が現れる。  
 不眠症で朝早く目が覚める。  
 疲労感と無気力。  
 集中力の欠如；優柔不断。  
 自殺や死について話す。  
 絶望感。  
 過度の罪悪感、すべてを無価値と感じる。  
 いらいらと敵意。  
 身体的に理由がないのに、慢性的なうずきや痛みについて何となく不平を言う。  
 身だしなみや清潔さに無頓着になる。  
 涙もろくなり、よく泣く。  
 排便習慣の変化、特に便秘。  
 アルコール飲料、薬剤、たばこの使用が増える。  
 記憶の喪失。

Virginia Morris 「高齢化する親のケアの仕方」、ニューヨーク、Workman Publishing Co., Inc., 1996年、107頁より許可を得て改作。

### せん妄

せん妄はうつ病や痴呆に似ていますが、突然襲い、しかも重度です。せん妄は一時的な疾患ですが、数時間続くこともあれば数日間に長引くこともあります。せん妄にかかると極度の意識障害と注意散漫に陥ったり、会話の途中で眠ってしまうこともあります。周囲の状況がどうなっているのか突然分からなくなり、親しい人たちの顔さえ見分けがつかなくなることがあります。

せん妄は、入院している高齢者に多く見られます。疾患、薬剤、部屋の変更、脱水症、感染症などが原因です。手術による外傷も、主要な原因です。

せん妄の症状の可能性があれば、直ちに医師に知らせなくてはなりません。せん妄を検査しないままにしておくとは医学的緊急事態を招きますが、確認が早ければ早いほど治療も容易です<sup>23</sup>。

<sup>23</sup> Virginia Morris 「高齢化する親のケアの仕方」、ニューヨーク、Workman Publishing Co., Inc., 1996年、111-112頁より許可を得て使用。

## 不安障害

不安障害の最も一般的徴候は、将来に対する過度の心配です。不安障害に関連する身体的症状も、以下の通りいくつかあります。

- ・興奮
- ・震えと震顫（しんせん）
- ・めまい
- ・息切れ
- ・吐き気
- ・発作的に起こる冷感、温感

こうした異常は不安が原因であると同時に、薬剤やカフェインの作用、ビタミン B-12 欠乏症、および鎮痛剤や薬物を止めることによっても生じます。

不安障害の効果的治療法は、以下の通りです。

- ・カウンセリングによって心配な事柄に対処する。
- ・精神をリラックスさせる技術を利用する。
- ・重症の場合は、抗不安薬を使用する<sup>24</sup>。

<sup>24</sup> Virginia Morris 「高齢化する親のケアの仕方」、ニューヨーク、Workman Publishing Co., Inc., 1996 年、112 頁より許可を得て使用。